

成果1

◆啓発パンフレットの活用（つちだよしはる氏デザイン「本といっしょ」）

第1次計画の課題である読書活動啓発充実のために作成し、幅広く活用されている。

- ・0歳～小学1年生まで各家庭にいきわたる手立てを取り配付している。
- ・図書館、子育て支援施設に配置するほか、保育園・幼稚園等、また読書活動推進団体の研修等においても活用されている。

成果2

◆読書活動推進事業の充実

【連携した取り組み】

- ・子どもに関わる団体、施設での読書推進活動の充実
→第1次計画の効果である家庭・保育園・幼稚園・学校・地域・図書館の連携により読書推進の拡充へとつながっている。

【乳幼児期への取り組み】

- ・0歳児を持つ家庭への有効な啓発としてのブックスタート事業の実施
- ・乳幼児を持つ世代への読書推進（育児講話・乳幼児へのおすすめの本）

【学童期への取り組み】

- ・小学1年生へ市立図書館利用カード配付が図書館利用への好機となっている。
- ・体験型事業の実施
子どもが本や図書館に触れる機会の創出となっている。
（小学生のための図書館講座、図書館司書体験、図書館ナイトツアー等）

【10代～大人への取り組み】

- ・YAコーナーのリニューアルにより中高生から大人まで幅広い年代に利用拡大となっている。
- ・各コンクールの実施や山形小説家ライター講座等による子どもから大人までの創作活動の機会となっている。

成果3

◆子どもから大人まで 市民の読書啓発

- ・インタビュー記事Web連載(市立図書館ホームページ)
「本といっしょ～つるおかの読書の未来を考えよう!～」
「読書の魅力、可能性」をテーマに市民の読書活動啓発として、官民関係者を合わせ、子どもから大人までそれぞれの年代による寄稿を掲載し、幅広い年代の読書啓発の一助となった。
- ・荘内日報「私の一冊」企画展
市民読書活動団体と市立図書館との連携企画展を開催し、児童書から一般書まで幅広いジャンルの本の紹介をしている。

課題

1) 数値目標に見える課題

児童図書貸出冊数、団体貸出冊数の目標数値の未達

2) 子どもの読書環境の急速な変化による影響

- ・スマートフォンやタブレットの普及による読書離れ
- ・読書環境のデジタル化による読書形態の変化

3) 読書奨励につながる創作活動・発表する場の不足

- ・10代（ヤングアダルト世代）から大人までの読書奨励につながる創作活動や読書への関心を高める取組の不足

今後の
方向性

具体的な手立てを検討し、さらに充実していくために取り組んでいく。